

標準型及び高度技術提案型の実施の手引

1 評価項目

標準型又は高度技術提案型の総合評価方式を適用する工事は、施工上の課題等について技術提案をさせ、工事の品質向上を期待するものであるため、下表を参考に技術提案を求め、提案の実現性や安全性等について審査・評価を行う。また、企業の施工実績や配置予定技術者の能力について評価することも考えられる。

なお、高度技術提案型とは、市の暫定的な設計に基づき入札参加者に技術提案を求め、修正設計の後に予定価格を作成するものをいう。

課題の分類	課題の例示	配点
技術提案の実現性、有効性を確認するための施工計画の適切性	・ 施工計画書（工程表を含む）の作成	全体で 30～50点程度
総合的なコスト縮減に関する技術提案	（ライフサイクルコストに関する評価項目例） ・ 構造物の維持管理費 ・ 非常用自家用発電機の燃料消費率 等 （その他コストに関する評価項目例） ・ 補償費の生じる期間の短縮日数 ・ 補償費の支出額 等	
工事目的物の性能、機能の向上に関する技術提案	（性能、機能に関する評価項目例） ・ 舗装構造提案による走行騒音値 ・ ポンプ排水量 等	
社会的要請への対応に関する技術提案	（環境の維持に関する評価項目例） ・ 工事排水のSS値 ・ 施工騒音の低減値 ・ 施工ヤードの裸地面積 等 （交通の確保に関する評価項目例） ・ 交通規制（通行止め、車線規制等）の短縮日数 等 （特別な安全対策に関する評価項目例） ・ 歩行者用通路幅 等 （省資源対策又はリサイクル対策に関する評価項目例） ・ 間伐材、伐採除根材等のリサイクル率 ・ 分別解体・現場内集積の対象項目・重量 等	
企業の施工実績や配置予定技術者の能力	（企業の施工実績） ・ 過去10年間の同種・類似工事の施工実績の有無 （配置技術者の能力） ・ 過去10年間の同種・類似工事の施工実績の有無 ・ 1級施工管理技士等	

2 標準型の評価項目の例

評価項目	評価基準	配点
施工計画の実施手順の妥当性	工事の手順が適切であり、工夫が見られる	1～5
	工事の手順は適切であるが、工夫が見られない	0
	工事の手順が適切でない	失格
工期設定の適切性	各工程の工期が適切であり、工期短縮が見られる	1～5
	各工程の工期は適切であるが、工期短縮は見られない	0
	各工程の工期が適切でない	失格
コンクリートの品質の確認方法、管理方法の適切性	品質の確認方法、管理方法が現地の環境条件（地形、地質、環境、地域特性等）を踏まえてあり、工夫が見られる	1～10
	品質の確認方法等は適切であるが、工夫が見られない	0
	品質の確認方法等が適切でない	失格
過去10年間の企業の施工実績の有無	国、愛知県又は岡崎市の同種工事の施工実績がある	4
	国、愛知県又は岡崎市以外の自治体等の同種工事の施工実績がある	2
	実績なし	0
主任（監理）技術者の保有する資格	1級土木施工管理技士又は技術士	3
	上記以外	0
過去10年間の主任（監理）技術者の施工実績の有無	同種工事の施工実績がある	3
	実績なし	0
合計		30

3 技術提案等の評価方法

(1) 技術提案書

評価は、絶対評価方式を基本とし、入札参加者ごとに技術提案を審査するものとする。加点は、下表のように評価の対象となる箇所を決め、その数を基に評価を決定するものとする。

ただし、課題によっては、入札参加者を相対的に評価する場合も考えられるが、その場合は、評価の公平性、透明性に十分注意することとする。

加点要素表（例：コンクリートの品質確認方法と管理方法）

評価項目	提案内容	仕様書規定
材料	練り混ぜから <u>1 時間以内</u> に打設を完了する	2 時間以内
配合	A E 減水剤を用いて <u>単位水量を 3 % 減らす</u>	-
	<u>高性能 A E 減水剤</u> を使用する	A E 減水剤
打設（寒中） （暑中）	コンクリートの打設温度を <u>1 0 以上</u> に保つ	4 ~ 2 0
	打ち込み時のコンクリート温度が <u>3 0 以下</u> となるように出荷する	3 5 以下
養生	冬季はジェットヒーターを使って養生する	標準養生
	<u>クラック低減剤</u> を塗布して水分の蒸発を抑え、ひび割れを抑制する	-
品質管理	<u>標準養生と現場養生</u> について圧縮強度試験を行う	標準養生
	<u>R C レコーダー</u> で鉄筋のかぶりの探査試験を実施する	-

注意事項

評価にあたっては、提案内容が確実に実現される内容であることを確認するものとし、「実施する予定」、「目標値」といったものは、評価の対象としてはならない。（提案文書だけで判断できない場合は、電子メール、F A X 等の記録が残る方法で、入札参加者に確認するものとする。）

各項目の各提案について、各評価者が採点し、その合計を評価者人数で割り、小数点第二位以下を四捨五入し、小数点第一位までで評価する。

提案内容が重複しており、かつその効果が重複する 2 つ目の提案については、1 つ目の評価より低く評価する。なお、1 つの提案の欄に対し複数の提案があった場合、一番低いと判断される提案で評価する。

落札した請負者には、契約後速やかに施工に関する技術提案の評価結果を通知するものとし、評価した項目は必ず実施させるものとする。

(2) 工程表

施工計画には、必要に応じ工程表を添付させるものとし、「工事内容の把握度の確認」、「工期の短縮」等の工程表を作成させる意図を評価基準等に記載するものとする。工程表の形式は、目的に合わせて、次の方式を指定するものとする。

バーチャート式

特徴：全体の時間軸に対し、工種ごとの施工日数で構成されるため、並行作業の状況を把握する上で一覧性があり、簡易に作成できること、理解しやすいことに優れるため、工種の少ない工事や日数の短縮を課題としない工事では、バーチャート式を指定することとする。

ネットワーク式

特徴：ネットワーク式は、ある工種部分の工程の短縮や遅延が、前後左右の他の工種にどのような影響を与えるかを明確にしているため、工程日数の把握が可能であり、大規模で多工種の工事ほど利用価値が高い。日数の短縮を課題とするときは、ネットワーク式を指定することとする。

4 高度技術提案型評価項目の例

(1) 施工計画

評価項目	評価基準	配点
技術提案の実現性、有効性を確認するための施工計画の適切性 ・与条件との整合性 ・技術的裏付け 等	施工計画が現地の環境条件（地形、地質、環境、地域特性等）を踏まえて適切であり、優位な工夫が見られる	20
	施工計画が現地の環境条件を踏まえており適切	10
	不適切ではないが、一般的な事項のみの記載となっている	0

(2) 配置予定技術者の能力について（ヒアリング）

評価項目	評価基準	配点
技術者の専門技術力 ・関連分野における施工経験や知識量 ・担当工事における主体性、創意工夫の取り組み	実績として挙げた工事の担当分野に中心的・主体的に参画し、創意工夫等の積極的な取り組みが確認できる	4
	実績として挙げた工事の担当分野において適切な工事管理を行ったことが確認できる	2
	その他	0
当該工事の理解度・取り組み姿勢 ・当該工事の施工上の課題や問題点等の理解度 ・課題への対応に関する技術的な裏付け ・疑問点等に対する質問等の積極性	当該工事について適切に理解した上で、施工上の提案等積極的な取り組み姿勢が見られる	4
	当該工事について適切に理解している	2
	その他	0
技術者のコミュニケーション能力	質問に対する応答が明快、かつ迅速である	2
	その他	0

(3) 技術提案について

評価項目	評価基準	配点
社会的要請への対応に関する技術提案内容	SS 値（150mg/L 以下） 150mg/L から15mg/L 低減毎に0.5 点（満点5 点）	20
	pH（8.6 以下） 8.6 から0.2 低減ごとに0.625点（満点5 点）	
	騒音（85dB 以下） 85dB から1dB 低減ごとに0.5点（満点10 点）	

5 予定価格の算定方法（高度技術提案型）

高度技術提案型の特徴は、発注者と入札参加者の技術対話を通じて技術提案の改善を行う手続きと、技術提案を基に予定価格を作成する手続きにあります。

手続きの一般的な流れは、下記のフローのとおりですが、予定価格は、技術評価点の最も高い技術提案に基づき算出することを基本とし、学識経験者への意見聴取結果を踏まえて定めるものとします。

高度技術提案型フロー（予定価格の算定フロー）

